

営農情報

大和まなの栽培

大和特産の伝統野菜のひとつです。古くから栽培されてきたアブラナ科の一種で、そのルーツは古事記に記されていたといわれており、わが国の中で最も古い野菜のひとつとされています。

奈良県では、平成17年10月に「大和の伝統野菜」として「大和まな」が認定されました。



葉は大根葉に似た切れ込みがあり、濃緑色で、肉質は柔らかく甘みに富んでおり、食味は寒さや霜にあたると甘みを増すのが特徴です。

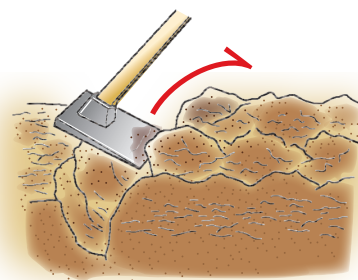
比較的寒さには強い作物ですが、気温が低い場所では、トンネルやべたがけ資材を利用して栽培しましょう。

アブラナ科野菜は、比較的連作に弱いので、前作にアブラナ科野菜を栽培した畑はできるだけ避けて栽培しましょう。

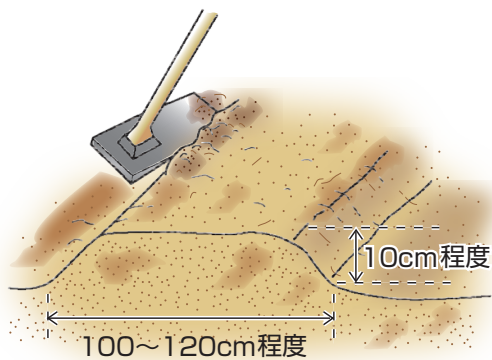
◆畑の準備

土づくりは、播種の約2週間前までに、1aあたりに完熟堆肥を200キロ程度施し、保水性・排水性を良くします。苦土石灰10キロ程度を施用し、酸度調整をしましょう。

畑全体に完熟堆肥をまいてよく耕し、保水性・排水性を良くする

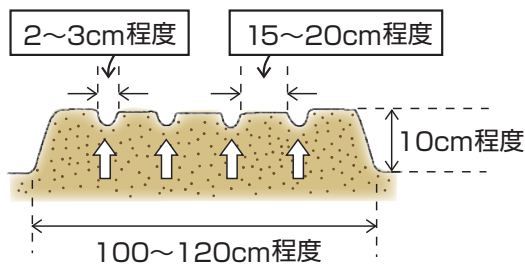


元肥は、播種の約1週間前までに、1aあたりにIB化成S1号を10キロ程度施し、幅100〜120センチ程度、高さ10センチ程度の畝を作ります。排水が悪いところでは、高畝にしましょう。



その後、幅2〜3センチ程度、深さ1センチ程度のまき溝を、

条間15〜20センチ程度の間隔で作ります。



◆播種

播種は、平坦では10月中旬〜11月上旬、中山間では10月中旬〜下旬までに行います。まき溝の底面をよくならし、十分灌水します。まき溝の底面が平らで覆土の厚さを均一にできれば、発芽や生育が揃いやすくなります。1.5〜2センチ程度の間隔で播種します。種子が見えない程度に覆土し、軽く押さえ、灌水します。

気温が低いところでは、べたがけシートなどの被覆資材で覆うと、保温効果で発芽が揃いやすくなります。



天秤座 9/23〜10/23

【全体運】自分に自信が持てる月。まとめ役を任せたら意欲的に引き受け、実力アピールを。コンペや面接などにもつき
【健康運】無理や我慢は禁物。疲れたら、即休んで 【幸運の食べ物】柿